

平成 26 年 6 月 10 日

内閣総理大臣 安倍晋三様
一財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
会長 森喜朗様
文部科学大臣 下村博文様
東京都知事 舛添要一様
独法)日本スポーツ振興センター
理事長 河野一郎様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会

共同代表:大橋智子・大橋智子建築事務所

上村千寿子・景観と住環境を考える全国ネットワーク

酒井美和子・デザイナー、まちまち net

清水伸子・一般社団法人グローバルコーディネーター

多田君枝・「コンフォルト」編集長

多見貞子・たてももの応援団

日置圭子・地域文化企画コーディネーター・粋まち代表

森 桜・アートコーディネーター・森オフィス代表

森まゆみ・作家・谷根千工房

山本玲子・全国町並み保存連盟

吉見千晶・住宅遺産トラスト

e-mail info@2020-tokyo.sakura.ne.jp FAX 03-6380-8812

緊急要望書「使いやすく愛される競技場を造るために、解体を半年延期し、
検討委員会を設置してください」

梅雨の候、ますますご清栄のことと存じ上げます。

私ども「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は「神宮外苑の緑と青い空を守ろう」「思い出の詰まった今の国立競技場を直して使い続けよう」ということを趣旨に昨年10月に結成された市民団体です。上記の二つの趣旨はいま18000人を超える賛同を得ています。その中には最初の異議申し立てを行った榎文彦さんをはじめとする高名な建築家もたくさんおり、山田洋次、桐島洋子、安野光雅、中村敦夫、椎名誠、上野千鶴子、中村桂子、芳賀徹、村松英子、池内了の各氏といった各界の著名人・専門家もおります。

現行計画には納税者である各界の意見が反映されていません。デザインコンクールのあと、当選案に対して専門家や市民がさまざまな意見を述べ、まさに公共の建物をみんなで作り上げていくプロセスがあるべきでした。それは安藤忠雄審査委員長が最初に自ら表明していた

ことでもあります。しかし、残念ながらそのような努力は一切なされませんでした。その結果、ザハ・ハディッドさんの作品に対する賞賛の声を聞くこともほとんどありませんでした。競技場建設については、IOCアジェンダ21という素晴らしい指針があり、東京都の「2020年東京オリンピック・パラリンピック環境ガイドライン」ではNGO、地域団体、公的機関、有識者、民間セクターとの協力・対話を行い…レガシーにつながる戦略の実施」を呼びかけていました。現在、たちこめている新国立競技場問題への不信感をめぐり去るため、下記を提案・要望いたします。

記

1 私たちは、7月1日より行われる解体をいったん中止し、せめて半年延期して、アスリート、建築家、都市計画家、防災専門家、施設管理経験者、近隣住民、歴史家などとの対話協働を進めることを提案します。それは、IOCや東京都が進めようとしていた基本理念に立ち返ることにほかなりません。

2 現今の新国立競技場建設案には、さまざまな矛盾や無理を強行しようとするがための破綻を感じます。手続きの不透明性、景観への影響、設備過剰、費用の増大、芝生の育成、収容人数や貸出料の点からも、つかえないスタジアムであるとの批判が広く巻き起こっていますが、これを見直し、名誉挽回するには、今しかありません。国民的な和解のために関係者の名誉ある決断を期待いたします。

3 計画の見直しには、IOCアジェンダ21という、オリンピック開催に当たっての高邁な精神に則した計画、つまり「持続可能な発展」を目指してください。わが国の借金1000兆円をさらに増やすことのないよう、よろしくお願いいたします。

4 5月28日に公表された基本設計案に対し、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞も社説で批判し、TBSも報道特集で批判しました。日経新聞のアンケートでは7割以上が「高すぎる」6割以上が「改修」を望みました。このような異論が過半を占める中で解体を強行すれば、それは来るべき2020年のオリンピックにとっても禍根を残すことになるでしょう。

計画に民意を反映させ、協働できる体制を作ることによって、祝福されるオリンピックへの道が開けると思います。そのためには、私どもも協力を惜しみません。

関係諸官庁、各団体におかれましては最大限のご努力をさせていただきますよう切に要望いたします。

以上